

21世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」研究集会 開催報告書

化学研究所 小澤文幸・時任宣博・武田亘弘・片山博之

集会名：21世紀 COE「京都大学化学連携研究教育拠点」

化学研究所 第2回有機元素化学セミナー

場所：京都大学化学研究所共同研究棟大セミナー室

日程：2005年3月5日（土）

招待講演者：俣野善博（京大院工）、内山真伸（東大院薬）、小江誠司（阪大院工）、山子茂（阪市大院理）、鬼塚清孝（阪大産研）、武田亘弘（京大化研）、生越専介（阪大院工）、佃達哉（分子研）、清水正毅（京大院工）、前田勝浩（名大院工）、上垣外正己（名大院工）、俣召民（理研）

主な参加者：京都大学化学研究所、工学研究科在籍大学院生・教官、企業関係者

総参加者概数：100名

講演内容：

近年、遷移金属元素や高周期典型元素の特性を活かした様々な機能性物質が合成され、有機金属化学、触媒的有機合成、高分子合成、材料科学の発展に大きく寄与している。これらの分野で活躍する国内の中堅・若手研究者を講師に招待し、最新の研究成果について議論・意見交換を行うとともに、参加する研究者間の交流を深めることを目的として本セミナーを開催した。

講演では、元素化学的な視点から、有機合成化学、高分子合成化学、有機金属錯体化学、材料科学など様々な分野の最新の研究成果が紹介された。具体的には、ビスマス、亜鉛、リチウム等の元素の特徴を生かした有機合成反応の開発、テルル、アンチモン、ルテニウム、希土類元素の特徴を利用した高分子の精密合成、ケイ素、金、硫黄などを含む新規機能性分子の合成、ルテニウム、白金などを中心金属とする特異な有機金属錯体に関する研究などが報告された。

会場には、化学研究所はもとより工学研究科や化学系企業などからも多くの参加者が集い、活発に討論が行われ、本 COE 事業の目的の一つである「部局および研究組織間の壁を越えた新規研究者ネットワークの構築」に大きく貢献することができたと考えている。また、休憩時間や懇親会においても活発に意見交換が行われた。本研究集会を通じて、当該研究分野における最新の研究成果について有意義な議論と意見交換が行われ、参加する研究者間の交流を深めることもできた。

プログラム

10:00–10:10	開会挨拶	高野 幹夫 化学研究所長
10:10–10:40	座長 辻 勇人 (京都大学化学研究所) 高い反応性をもつ高原子価ビスマス酸化剤の開発 俣野 善博 (京都大学大学院工学研究科)	
10:40–11:10	アート錯体の分子設計と機能 ー元素を組み合わせる科学ー 内山 真伸 (東京大学大学院薬学系研究科)	
11:10–11:40	座長 椿 一典 (京都大学化学研究所) pH 制御による水中物質変換反応の開発 小江 誠司 (大阪大学大学院工学研究科)	
11:40–12:10	高周期典型元素の特性を活かしたラジカル反応 山子 茂 (大阪市立大学大学院理学研究科)	
12:10–13:30	昼食	
13:30–14:00	座長 西長 亨 (京都大学化学研究所) 巨大有機金属分子の精密合成 鬼塚 清孝 (大阪大学産業科学研究所)	
14:00–14:30	かさ高い置換基の特徴を利用した新規遷移金属錯体の合成 武田 亘弘 (京都大学化学研究所)	
14:30–15:00	座長 笹森 貴裕 (京都大学化学研究所) 10 族遷移金属に配位したカルボニル化合物の反応性 生越 専介 (大阪大学大学院工学研究科)	
15:00–15:30	有機・金クラスター複合体のサイズ選択的合成と構造・反応性 佃 達哉 (分子科学研究所)	
15:30–15:50	休憩	
15:50–16:20	座長 村田 靖次郎 (京都大学化学研究所) 機能性多ケイ素かご型分子 清水 正毅 (京都大学大学院工学研究科)	
16:20–16:50	水中でのらせん高分子の合成と応用 前田 勝浩 (名古屋大学大学院工学研究科)	
16:50–17:20	座長 片山 博之 (京都大学化学研究所) 金属触媒による精密制御ラジカル重合 上垣外 正己 (名古屋大学大学院工学研究科)	
17:20–17:50	希土類重合触媒の新展開 侯 召民 (理化学研究所)	

17:50-18:00 閉会挨拶

小澤 文幸 教授

18:00-20:00 懇親会（宇治生協食堂にて）

写真



講演風景



講演風景



討論風景



討論風景